ご挨拶

木犀会会長　橋口　玄郎

木犀会会長を仰せ付かっている橋口と言います。第１３５周年記念祝賀同窓会の開催に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。私は、齢こそ重ねてはいますが、非力ですので、会員の皆さまからの温かな応援をお願いしているところです。

本年の祝賀会が会場の確保の関係もあって、平日開催となったことを先ずもってお詫び致します。新型コロナウィルス肺炎の感染拡大防止の時勢の中、ご多用の中にも拘らず、ご列席いただきました皆さまに熱く御礼申し上げます。ご来賓として、顧問の緒方明夫様にもご参加いただいております。

宮大教育学部前身の師範学校が創立された１８８５年ごろは、維新後十数年が経過したばかりで、いろいろな改革が進められた時代でした。その一つに人材育成があり、教育の重要性が叫ばれ、学校の設置・指導者育成が急がれていました。本県中等教育の要として存在し続けたのは、旧制宮崎中現在の大宮高校ですが、その創立より４年も先駆けて宮崎尋常師範が設置されていることでも分かると思います。そして、数多くの先賢諸子を世に送り出し続けてきたことは私が改めて申し上げることでもないと思います。

木犀会は、老若男女を問わず、「ワンチーム」だと思っていますが、同窓会への参加者の大多数が７０代以上なのが現状です。もっと若い世代の参加者が増えるよう願っています。そして、あらゆる世代の参加が得られ、教壇で子供たちに熱く呼びかけたように、楽しく盛り上がる会になることを望んでいます。参加することで物質的な利得はありませんが、日頃は音信がない者との再会でもあれば、懐かしい話に花が咲くはずです。皆さんからも是非呼びかけて欲しいと思います。

木犀会は【母校創立記念祝賀同窓会、心霊合祀慰霊祭、卒業祝賀木犀会入会式】を始め、【広報活動（会報の発行・ホームページ等のネットワークづくり）】その他の事業を行っています。また、母校の充実発展のための応援団として【大学との連携強化】も大事にしています。会員の皆さまの健康維持は、申し上げるまでもありません。是非、ホームページを開いてみてください。課題は事業を展開する上での財源をいかに確保するかにあります。引き続き会員の皆さまのご理解と物心両面に亘るご支援を仰ぎたいと思っています。

本年は、オリンピック・パラリンピックの開催で大変盛り上がっており、先のラグビーワールドカップ以上の成功が期待されています。本県でも初めて国民文化祭・全国障害者芸術祭が予定されています。私自身、関心が高い方ではなかったので、何も言えませんが、スポーツだけでなく、県民挙げて、文化芸術への関心度が一段と高まるきっかけになれば幸いです。

本日は、母校が発展し、ますます輝き続けることを願い、和気藹々とした雰囲気の中、話が盛り上がることをご期待申し上げご挨拶とさせていただきます。新型コロナウィルスを防止するためにも、できるだけ接触を避けていただければと思います。